

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更									
フリガナ設置者	ガッコウホクシン ヒョウコウイカダガク 学校法人 兵庫医科大学									
フリガナ大学の名称	ヒョウコウイカダガクイカク 兵庫医科大学大学院 (Hyogo Medical University Graduate School)									
大学本部の位置	兵庫県西宮市武庫川町1番1号									
大学の目的	<p>本学大学院は、建学の精神にもとづき、医学・医療の諸理論とその応用について学修・研鑽し、崇高な人間愛を有し、創造性豊かな自立した医学研究者、並びに高度な専門知識・技術を有する医療人を育成する。そのために必要な高度の研究実践能力とその基盤となる豊かな学識を培い、さらに研究活動によって得た成果を社会に還元することで医学・医療の発展に寄与する。</p>									
新設研究科等の目的	<p>リハビリテーション科学研究科は、リハビリテーション科学専攻を設け、リハビリテーション領域における最新の知見や技術を取り入れた医療が提供できる高度専門職者の養成並びに、様々なデータ解析からエビデンスを創出して新しい医療を提案できる研究者・教育者を育成する。</p>									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	<p>・令和5年6月名称変更届出 医療科学研究科 医療科学専攻をリハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻へ名称変更 【基礎となる学部・研究科】 ・リハビリテーション学部 理学療法学科 作業療法学科 ・リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 修士課程 14条特例の実施</p>
	リハビリテーション科学研究科 [Graduate School of Rehabilitation Science] リハビリテーション科学専攻 [Course of Rehabilitation Science] 計	3年	2人	—年次人	6人	博士 (リハビリテーション科学) [Doctor of Philosophy in Rehabilitation Science]	保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)	令和7年4月第1年次	兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6	
<p>同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程 (2) (令和6年3月認可申請)</li> <li>・令和7年4月名称変更予定 看護学研究科看護学専攻 修士課程 → 看護学研究科看護学専攻 博士前期課程</li> </ul>										
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数				
	リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 (博士後期課程)	講義	演習	実験・実習	計	18単位				
		5科目	3科目	0科目	8科目					
新設	研究科等の名称		専任教員				助手	専任教員以外の数 (助手を除く)		<p>・看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程 令和6年3月認可申請</p> <p>・令和7年4月名称変更予定 看護学研究科看護学専攻 修士課程を看護学研究科看護学専攻 博士前期課程へ名称変更予定</p>
	リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 (博士後期課程)	教授	准教授	講師	助教	計	0	6		
看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程)	10 (8)	6 (6)	9 (9)	0 (0)	25 (23)	0 (0)	6 (6)			
計	26 (23)	12 (12)	10 (10)	0 (0)	48 (45)	0 (0)	— (—)			
既設	医学研究科 医科学専攻 (博士課程)	67 (67)	31 (31)	80 (80)	138 (138)	316 (316)	—	—		
	医学研究科 先端医学専攻 (博士課程)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	—	—		
	薬学研究科 医療薬学専攻 (博士課程)	14 (14)	9 (9)	9 (9)	11 (11)	43 (43)	0 (0)	0		
	看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	14 (14)	9 (9)	6 (6)	6 (6)	35 (35)	0 (0)	73 (73)		
	リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 (修士課程)	9 (9)	4 (4)	7 (7)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	25 (25)		
計	105 (105)	53 (53)	102 (102)	156 (156)	416 (416)	0 (0)	— (—)			
合計		108 (105)	53 (53)	102 (102)	156 (156)	419 (416)	0 (0)	— (—)		
職種		専属			その他			計	<p>※大学全体：西宮キャンパスと神戸キャンパスの合計。 以下同じ。 ※病院職員はその他の職員に含む</p>	
事務職員		492人 (492人)			0人 (0人)			492人 (492人)		
技術職員		17人 (17人)			0人 (0人)			17人 (17人)		
図書館職員		5人 (5人)			0人 (0人)			5人 (5人)		
その他の職員		2,152人 (2,152人)			0人 (0人)			2,152人 (2,152人)		
指導補助者		0人 (0人)			0人 (0人)			0人 (0人)		
計		2,666人 (2,666人)			0人 (0人)			2,666人 (2,666人)		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	※大学全体 【うち、神戸キャンパス分】 ・校地 49,138.00㎡			
	校 舎 敷 地	147,350.10㎡	0㎡	0㎡	147,350.10㎡				
	そ の 他	25,406.37㎡	0㎡	0㎡	25,406.37㎡	【うち、梅田健康医学クリニック借用 1,143.11㎡、期間 2022年～2032年】			
	合 計	172,756.47㎡	0㎡	0㎡	172,756.47㎡				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	※大学全体 【うち、神戸キャンパス分】 ・校舎35,075.83㎡				
	80,079.50㎡ (80,079.50㎡)	0㎡ ( 0㎡)	0㎡ ( 0㎡)	80,079.50㎡ (80,079.50㎡)					
講義室等・新設研究科等の専任教員研究室	講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の専任教員研究室	27室	※大学全体 【うち、神戸キャンパス分】 ・講義室20室 ・実験・実習室36室 ・演習室31室 ※新設研究科等の専任教員研究室はリハビリテーション科学研究科とリハビリテーション学部共通			
	36室	50室	98室						
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	※リハビリテーション学部・リハビリテーション科学研究科で共通	
	リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻(博士後期課程)	8,027 [1,141] (7,687 [1,139])	14 [4] (8 [2])	129 [60] (129 [60])	12 [12] (12 [12])	179 (179)	13 (13)	【大学全体での共用分】 ・図書12,140冊 [862冊] ・学術雑誌7,200種 [5,715種] (うち電子ジャーナル7,148種) [5,707種]	
	計	8,027 [1,141] (7,687 [1,139])	14 [4] (8 [2])	129 [60] (129 [60])	12 [12] (12 [12])	179 (179)	13 (13)		
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	※図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。 ※経費の見積りは研究科単位での算出不能なため、学部との合計	
	教員1人当り研究費等		340千円	340千円	340千円	— 千円	— 千円		
	共同研究費等		400千円	400千円	400千円	— 千円	— 千円		
	図書購入費	10,702千円	10,702千円	10,702千円	10,702千円	— 千円	— 千円		
	設備購入費	2,082千円	2,082千円	2,082千円	2,082千円	— 千円	— 千円		
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	【神戸キャンパス全体での共用分(設備購入費)】 44,433千円		
		800千円	600千円	600千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要	寄附金収入、補助金収入、手数料収入等を充当								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称	兵庫医科大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	医学部 医学科	6	112	—	672	学士(医学)	1.04	昭和47年度	兵庫県西宮市 武庫川町1番1号
	薬学部 医療薬学科	6	150	—	900	学士(薬学)	0.88	令和4年度	兵庫県神戸市中央区 港島1丁目3番地6
	看護学部 看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.12	令和4年度	兵庫県神戸市中央区 港島1丁目3番地6
	リハビリテーション学部 理学療法学科 作業療法学科	4 4	40 40	— —	160 160	学士(理学療法学) 学士(作業療法学)	1.18 1.03	令和4年度	兵庫県神戸市中央区 港島1丁目3番地6
	医学研究科 博士課程 医科学専攻 先端医学専攻	4 4	40 20	— —	160 80	博士(医学) 博士(医学)	1.23 0.03	昭和53年度	兵庫県西宮市 武庫川町1番1号
	薬学研究科 博士課程 医療薬学専攻	4	3	—	12	博士(薬学)	0.83	令和4年度	兵庫県神戸市中央区 港島1丁目3番地6
	看護学研究科 修士課程 看護学専攻	2	8	—	16	修士(看護学)	1.25	令和4年度	兵庫県神戸市中央区 港島1丁目3番地6
	リハビリテーション科学研究科 修士課程 リハビリテーション科学専攻	2	8	—	16	修士(医療科学)	1.18	令和4年度	兵庫県神戸市中央区 港島1丁目3番地6
									※令和4年度開設の学部、研究科の「収容定員」「収容定員充足率」は、兵庫医科大学との統合により、転入学した学生を含む。 ・薬学部医療薬学科 ・看護学部看護学科 ・リハビリテーション学部 理学療法学科 作業療法学科 薬学研究科医療薬学専攻博士課程 ・看護学研究科看護学専攻修士課程 ・リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻修士課程

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：兵庫医科大学病院          目的：教育、診療          所在地：兵庫県西宮市武庫川町1番1号          設置年月：昭和47年4月          規模等：土地20,107.37㎡ 建物90,034.35㎡</p>	
	<p>名称：兵庫医科大学ささやま医療センター          目的：教育、診療          所在地：兵庫県丹波篠山市黒岡5番地          設置年月：平成9年10月（平成22年6月「兵庫医科大学ささやま医療センター」と改称）          規模等：土地17,391.97㎡ 建物11,953.02㎡</p>	
	<p>兵庫医科大学ささやま老人保健施設          目的：教育、診療          所在地：兵庫県丹波篠山市黒岡36番地          設置年月：平成11年9月          規模等：建物4,361.29㎡</p>	
	<p>兵庫医科大学ささやま居宅サービスセンター          目的：教育、診療          所在地：兵庫県丹波篠山市黒岡36番地          設置年月：平成28年1月          規模等：建物4,449.1㎡</p>	
	<p>名称：兵庫医科大学図書館          目的：教育          所在地：兵庫県西宮市武庫川町1番1号（西宮キャンパス）          兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6（神戸キャンパス）          設置年月：昭和47年4月（西宮キャンパス）、平成19年4月（神戸キャンパス）          規模等：997㎡（西宮キャンパス）、2,795.24㎡（神戸キャンパス）</p>	
	<p>名称：薬用植物園          目的：薬学部教育          所在地：兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6          設置年月：平成19年4月          規模等：面積556㎡、園内附帯施設 温室47㎡</p> <p>兵庫医科大学梅田健康医学クリニック          目的：教育、診療          所在地：大阪府大阪市北区梅田1-13-1 大阪梅田ツインタワーズ・サウス 13F          設置年月：令和4年10月          規模等：1143.11㎡</p>	

教育課程等の概要																	
(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士後期課程)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員		
専門基礎科目	Scientific English	1・2前		1					○			1	2	3			隔年・共同 ※講義
	先進リハビリテーション学	1・2前		1			○					3	2	1			隔年・オムニバス
	小計（2科目）	—	—	2	0	0	—	—	—	—	—	4	2	4	0	0	2
専門科目	リハビリテーション科学特講	1前		2			○					10	6	2			※演習
	リハビリテーション科学特講演習	1後		2				○				10	6	6			
	小計（2科目）	—	—	4	0	0	—	—	—	—	—	10	6	6	0	0	0
研究指導	特別研究	1～3通		12					○			10	6	2			
	小計（1科目）	—	—	12	0	0	—	—	—	—	—	10	6	2	0	0	0
自由科目	教育学特論	1後				2	○										4
	リハビリテーション科学教育論（養成校教育）	2前				1	○				1						※演習
	リハビリテーション科学教育論（臨床教育）	2前				1	○				1						※演習
	小計（3科目）	—	—	0	0	4	—	—	—	—	—	1	0	0	0	0	4
合計（8科目）				—	—	18	0	4	—	—	—	10	6	9	0	0	6
学位又は称号	博士（リハビリテーション科学）			学位又は学科の分野				保健衛生学関係（リハビリテーション関係）									
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
専門基礎科目2単位、専門科目4単位、研究指導科目12単位、合計18単位の単位を取得並びに学位論文の審査及び最終試験に合格すること。									1学年の学期区分				2 学期				
									1学期の授業期間				15 週				
									1時限の授業の標準時間				90 分				

教育課程等の概要																					
(リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻 修士課程)																					
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考						
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員以外教員					
共通科目 (修士・博士前期課程)	医療統計学特論	1後	/		1			○			1										
	医療倫理学特論	1前			1			○													
	先進医療支援特論	1前			1			○				2									
	小計(3科目)	—		—	0	3	0					1	2	0	0	0	9	オムニバス・共同(一部)			
専門基礎科目	リハビリテーション科学研究法	1前	/	1				○			1		1					1	オムニバス		
	リハビリテーション科学トピックス	1後		2				○			5	2	1						2	オムニバス	
	リハビリテーション医学特論	1前			1				○			2							1	オムニバス	
	疾病・病態特論	1前			2				○										11	オムニバス・共同(一部)	
	リハビリテーション科学教育論(養成校教育)	2前			1				○			1									
	リハビリテーション科学教育論(臨床教育)	2前			1				○			1									
	リハビリテーション科学統計学実践特論	2前			1				○			1							1	共同	
	体表解剖学実践特論	1後			1				○			2								共同	
	物理療法実践特論	2前			1				○			1									
	バイオメカニクス特論	1後			1				○				1								
	運動生理学特論	1前			1				○			1		1						オムニバス	
	精神作業行動特論	1後			1				○			3	1	1						オムニバス	
	高次脳機能特論	1前			1				○					1							
	身体系作業学特論	1後			1				○			1		1							
	地域作業学特論	1後			1				○			2	1	2						オムニバス	
	高機能広汎性発達障害特論	1前			1				○			1	1								
	ウィメンズヘルス特論	1後			1				○				1								
	鑑別診断学(画像診断・臨床検査)	1前			1				○			2							2	オムニバス	
	鑑別診断学(臨床推論)	1後			1				○			4								共同	
	症例提示法特論	1前			1				○			1									
症例検討実践特論	2前		1				○			8	2	5						オムニバス・共同			
教育学特論	1後		2				○										4	オムニバス			
小計(22科目)	—	—	—	3	22	0					9	4	7	0	0	19	—				
専門科目	病態運動学分野	運動器障害学特論	1前	/	2				○			2	1							共同	
		運動器障害学特論演習	1後～2通		6				○			2	1							共同	
		内部障害学特論	1前		2				○			1		1						共同	
		内部障害学特論演習	1後～2通		6				○			1		1						共同	
		神経障害学特論	1前		2				○			2	2	2							共同
		神経障害学特論演習	1後～2通		6				○			2	2	2							共同
	小計(6科目)	—	—		—	0	24	0					5	3	3	0	0	0	—		
	人間活動科学分野	身体・認知活動学特論	1前		/	2				○			2		2						共同
		身体・認知活動学特論演習	1後～2通			6				○			2		2						共同
		精神活動学特論	1前			2				○			2	1	1						オムニバス
精神活動学特論演習		1後～2通	6					○			2	1	1						共同		
小計(4科目)	—	—	—	0	16	0					2	1	3	0	0	0	—				
科指研 目導究	リハビリテーション科学課題研究	1～2通	/	8				○			9	4	6								
	リハビリテーション科学研究	1～2通		8				○			9	4	6								
	小計(2科目)	—		—	—	0	16	0					9	4	6	0	0	0	—		
合計(37科目)		—	—	—	3	81	0					9	4	7	0	0	25	—			
学位又は称号	修士(医療科学)		学位又は学科の分野					保健衛生学関係(リハビリテーション関係)													
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等											
共通科目(修士・博士前期課程)から2単位以上、専門基礎科目から必修を含めて14単位以上、専門科目から履修する領域に応じた特論2単位、演習6単位を含めて8単位以上、研究指導科目より8単位以上を修得し、32単位以上を修得すること。修士論文または課題研究を提出し審査を受けること。最終試験に合格すること。										1学年の学期区分		2学期									
										1学期の授業期間		15週									
										1時限の授業の標準時間		90分									

教育課程等の概要

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学生のリテラシー	アカデミックリテラシー	1前	2			○			1	4	2			兼29	※演習 共同	
	医療概論	1前	1			○								兼7		
	小計(2科目)	-	3	0	0	-	-	-	1	4	2			兼34	-	
導入教育科目	教理科学入門	1前	2			○								兼1		
	生物学入門	1前	2			○					1			兼1		
	小計(2科目)	-	4	0	0	-	-	-			1			兼2	-	
基礎分野	健康スポーツ科学 I	1前	1					○		1				兼2	共同	
	健康スポーツ科学 II (理論を含む)	1後	1					○		1				兼2	共同	
	生物学	1後		2		○								兼1		
	心理学	1前		2		○								兼1		
	哲学	1前		2		○								兼1		
	人間発達学	1前		2		○								兼1		
	生命・医療倫理学	1後	2			○								兼1		
	芸術学	1前		2		○								兼2		
	社会学	1前		2		○								兼1		
	臨床心理学(カウンセリング論を含む)	1後	2			○								兼1		
	社会福祉学	1後	2			○								兼1		
	教育学	1前		2		○								兼1		
	法学(日本国憲法を含む)	1後		2		○								兼1		
	化学と生命	1前		2		○								兼2		
	科学論	1後		1		○								兼4		
	情報の科学	1後		2		○								兼1	共同	
地域ボランティア論	4後		1		○								兼1			
食品・環境論	1後		2		○								兼1			
	小計(18科目)	-	10	22	0	-	-	-		1				兼16	-	
外国語	基礎英語	1前	2			○								兼1	※演習	
	英語会話	1後	2				○							兼1		
	科学英語	2前		2		○								兼1	※演習	
	応用英語	2後		2		○								兼1		
	韓国語	1後		2			○							兼2		
	中国語	1後		2			○							兼2		
	小計(6科目)	-	4	8	0	-	-	-						兼6	-	
臨床体験	早期臨床体験実習	1前	1					○	2	1	1			兼25	共同	
	小計(1科目)	-	1	0	0	-	-	-	2	1	1			兼25	-	
専門基礎分野	解剖学 I	1前	1			○								兼1	共同	
	解剖学 II	1後	1			○								兼1		
	解剖学実習 I	2前	1					○						兼1		
	解剖学実習 II	2前	1					○	3					兼2	共同	
	生理学 I	1前	1			○					1					
	生理学 II	1後	1			○					1					
	生理学実習	2前	1					○		1	1			兼1	共同	
	病理学	2前	1			○								兼3	オムニバス	
	運動学 I	1後	1			○				1				兼1		
	運動学 II	2前	1			○			1	2				兼1		
	運動学実習	2後	1					○		2				兼3	共同	
	運動発達論	2前	1			○								兼1		
		小計(12科目)	-	12	0	0	-	-	-	4	3	1			兼10	-
	臨床医学	一般臨床医学	3前	1			○								兼2	オムニバス
リハビリテーション医学		3後	1			○			1					兼4	オムニバス	
内科学 I		2前	1			○								兼1		
内科学 II		2後	1			○								兼1		
神経内科学 I		2後	1			○			1						オムニバス	
神経内科学 II		3前	1			○			1						オムニバス	
整形外科 I		2前	1			○								兼1		
整形外科 II		2後	1			○								兼1	オムニバス	
精神医学 I		2後	1			○								兼1		
義肢装具学		2後	1			○					1			兼2	※演習 オムニバス	
臨床薬学		3前	1			○								兼1		
医療安全特論		3前	1			○					1			兼6	オムニバス	
救急・災害医療		4後		1		○								兼1	オムニバス	
総合スポーツ医学特論	4後	1			○				1				兼1	※演習 オムニバス		
リハビリテーション実践特論	4後	1			○			1					兼1	※演習 オムニバス		
	小計(15科目)	-	14	1	0	-	-	-	2	1	2			兼12	-	

教育課程等の概要

(リハビリテーション学部 理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基礎分野	医療と社会	リハビリテーション概論	1前	1			○			1					兼3	オムニバス	
		看護論	3前	1			○								兼8	オムニバス	
		薬学概論	3前	1			○								兼8	オムニバス	
		公衆衛生学	2前	2			○								兼6		
		医療統計学演習	3後	1				○		1		1			兼1	※講義	
		医学英語	3後	1			○					1			兼2		
	小計(6科目)	-	7	0	0	-	-	-	2		1	1		兼27	-		
専門基礎分野	チーム医療	チーム医療概論	2後	1			○					2			兼17	※演習 共同	
		チーム医療演習	4前	1				○		1	1	2			兼20	集中・共同	
		多職種連携実習	4前		1				○						兼4		
	小計(3科目)	-	2	1	0	-	-	-	1	1	2			兼29	-		
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	1前	2			○			1	3	2				※演習	
		基礎理学療法学	2前	2			○			4	3	3	1			共同	
		理学療法研究法	3後	1			○			1		1				※演習 共同	
		バイオメカニクス	1後	2			○				1					共同	
		小計(4科目)	-	7	0	0	-	-	-	4	3	3	1		兼0	-	
	理学療法管理学	理学療法管理学	3後	2			○			2	2					※演習	オムニバス
		小計(1科目)	-	2	0	0	-	-	-	2	2				兼0	-	
	理学療法評価学	体表解剖学実習	1後	1					○	3	1	2	1				共同
		理学療法評価学	2前	2			○			3		3	1			※演習 共同	
		運動器系理学療法学 I	2後	1			○			2						※演習 共同	
		神経系理学療法学 I	2後	1			○				1	2				※演習 オムニバス	
		内部障害理学療法学 I	3前	1			○			1		1				※演習	
		小計(5科目)	-	6	0	0	-	-	-	4	2	3	1		兼0	-	
	理学療法治療学	物理療法学	2後	2			○			1			1			※演習	
物理療法学演習		3前	1					○	2			1			共同		
義肢装具学実習		3前	1					○		1	1				共同		
日常生活活動学		2後	2			○			2	1	2			兼1	※演習 共同		
日常生活活動学実習		3前	1					○	1	1	2	1			※演習 共同		
運動器系理学療法学 II		2後	2			○			2						※演習 共同		
運動器系理学療法学実習		3前	2					○	2						※講義・演習 共同		
神経系理学療法学 II		2後	2			○				2	2				※演習 共同		
神経系理学療法学実習		3前	2					○		2	2				※講義・演習 共同		
小児発達理学療法学演習		3後	2					○		1	1			兼2	※講義 オムニバス		
内部障害理学療法学 II		3後	2			○			1		1				※演習 共同		
内部障害理学療法学実習		3後	2					○	1		1				※講義 共同		
理学療法トピックス		4後	1			○				2		1			※演習 オムニバス		
スポーツ理学療法学演習	4後		1		○			2						※演習 共同			
	小計(14科目)	-	22	1	0	-	-	-	4	3	3	1		兼3	-		
地域理学療法学	地域理学療法学	3前	2			○			1	1					※演習	オムニバス	
	生活環境学	3後	1			○			1						※演習		
	小計(2科目)	-	3	0	0	-	-	-	1	1				兼0	-		
臨床実習	見学実習 I	1前	1					○	4	3	3	1				共同	
	見学実習 II	2後	1					○	4	3	3	1				共同	
	基礎臨床実習	3後	3					○	4	3	3	1				共同	
	地域理学療法学実習	3後	1					○	4	3	3	1				共同	
	総合臨床実習 I	3後~4前	8					○	4	3	3	1				共同	
	総合臨床実習 II	4前	8					○	4	3	3	1				共同	
	小計(6科目)	-	22	0	0	-	-	-	4	3	3	1		兼0	-		
総合演習	卒業研究	4後	3					○	5	4	4	1			兼14	共同	
	理学療法基礎演習	2後	1					○		1	1					共同	
	理学療法総合演習	4後	1					○		1	1	1				共同	
	小計(3科目)	-	5	0	0	-	-	-	5	4	4	1		兼14	-		
合計(100科目)			-	124	33	0	-	-	5	4	4	1		兼104			
学位又は称号	学士(理学療法学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(リハビリテーション関係)											
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
基礎分野:必修22単位、選択8単位以上(うち選択必修2単位を含む。)、専門基礎分野:必修35単位、選択1単位以上、専門分野:必修67単位、計必修124単位、選択9単位以上の合計133単位以上を卒業要件とする。 基礎分野選択科目のうち、韓国語、中国語から2単位を選択必修とする。 (履修科目の登録の上限:47単位(年間))						1学年の学期区分			2学期								
						1学期の授業期間			15週								
						1時限の授業時間			90分								

教育課程等の概要

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎分野	アカデミックリテラシー	1前	2			○			1					兼31	※演習 共同	
	医療概論	1前	1			○			1		4			兼6		
	小計(2科目)	-	3	0	0	-	-	-	1		4			兼36	-	
	導入教育科目	数理学入門	1前	1			○								兼1	
	生物学入門	1前	2			○								兼2		
	小計(2科目)	-	3	0	0	-	-	-						兼3	-	
	基礎科目	健康スポーツ科学Ⅰ	1前	1											兼3	共同
	健康スポーツ科学Ⅱ(理論を含む)	1後	1					○						兼3	共同	
	生物学	1後	2			○			1							
	心理学	1前	2			○					1				兼1	
	哲学	1前	2			○										
	人間発達学	1前	2			○					1					
	生命・医療倫理学	1後	2			○									兼1	
	芸術学	1前	2			○									兼2	
	社会学	1前	2			○									兼1	
	臨床心理学(カウンセリング論を含む)	1後	2			○					1					
	社会福祉学	1後	2			○									兼1	
	教育学	1前	2			○									兼1	
	法学(日本国憲法を含む)	1後	2			○									兼1	
	化学と生命	1前	2			○									兼2	
科学論	1後	1			○					1				兼3		
情報の科学	1後	2			○									兼1	共同	
地域ボランティア論	4後	1			○									兼1		
食品・環境論	1後	2			○									兼1		
小計(18科目)	-	10	22	0	-	-	-	1		1				兼15	-	
外国語	基礎英語	1前	2			○					1				※演習	
英語会話	1後	2					○				1					
科学英語	2前	2			○									兼1	※演習	
応用英語	2後	2			○						1					
韓国語	1後	2					○							兼2		
中国語	1後	2					○							兼2		
小計(6科目)	-	4	8	0	-	-	-			1				兼5	-	
臨床体験	早期臨床体験実習	1前	1					○	2		3	1		兼23	共同	
小計(1科目)	-	1	0	0	-	-	-	2		3	1			兼23	-	
専門基礎分野	解剖学Ⅰ	1前	1			○			1						共同	
	解剖学Ⅱ	1後	1			○			1							
	解剖学実習Ⅰ	2前	1					○	1							
	解剖学実習Ⅱ	2前	1					○	1		1			兼1	共同	
	生理学Ⅰ	1前	1			○								兼1		
	生理学Ⅱ	1後	1			○								兼1		
	生理学実習	2前	1					○						兼3	共同	
	病理学	2前	1			○								兼3	オムニバス	
	運動学Ⅰ	1後	1			○						1		兼1		
	運動学Ⅱ	2前	1			○					1			兼3		
	運動学実習	2後	1					○			1	1	1	兼2	共同	
	運動発達論	2前	1			○			1							
	小計(12科目)	-	12	0	0	-	-	-	2		2	1	1	兼10	-	
	臨床医学	一般臨床医学	3前	1			○			1					兼1	オムニバス
	リハビリテーション医学	3後	1			○			1					兼4	オムニバス	
	内科学Ⅰ	2前	1			○								兼1		
	内科学Ⅱ	2後	1			○								兼1		
	神経内科学Ⅰ	2後	1			○								兼1	オムニバス	
	神経内科学Ⅱ	3前	1			○								兼1	オムニバス	
	整形外科Ⅰ	2前	1			○								兼1		
整形外科Ⅱ	2後	1			○								兼1	オムニバス		
精神医学Ⅰ	1後	1			○			1								
精神医学Ⅱ	2前	1			○			1								
義肢装具学	2後	1			○			1			1		兼1	※演習 オムニバス		
臨床薬学	3前	1			○								兼1			
医療安全特論	3前	1			○			2					兼5	オムニバス		
救急・災害医療	4後	1			○								兼1	オムニバス		
総合スポーツ医学特論	4後	1			○								兼2	※演習 オムニバス		
リハビリテーション実践特論	4後	1			○								兼2	※演習・実技 オムニバス		
小計(16科目)	-	14	2	0	-	-	-	2				1	兼14	-		

教育課程等の概要

(リハビリテーション学部 作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎分野	医療と社会	リハビリテーション概論	1前	1			○			1		1			兼2	オムニバス
		看護論	3前	1			○								兼8	オムニバス
		薬学概論	3前	1			○								兼8	オムニバス
		公衆衛生学	2前	2			○								兼6	
		医療統計学演習	3後	1				○				1			兼2	※講義
		医学英語	3後	1			○			1		1			兼1	
	小計(6科目)	-	7	0	0	-	-	-	2		3			兼26	-	
	チーム医療	チーム医療概論	2後	1			○			2		3			兼14	※演習 共同
		チーム医療論演習	4前	1				○		1		2			兼21	集中・共同
		多職種連携実習	4前		1				○						兼4	
小計(3科目)	-	2	1	0	-	-	-	2		3			兼28	-		
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論Ⅰ	1前	1			○			1						共同
		作業療法概論Ⅱ	1前	1			○			1						
		作業活動学実習Ⅰ	1後	1					○			1	1	1		
		作業活動学実習Ⅱ	2後	1					○			2	1			
		作業療法研究法	3後	1			○			1						
	小計(5科目)	-	5	0	0	-	-	-	2		3	1	1	兼0	-	
	作業療法管理学	作業療法管理学Ⅰ	3前	1			○			1						
		作業療法管理学Ⅱ	3後	1			○			1						
	小計(2科目)	-	2	0	0	-	-	-	1					兼0	-	
	作業療法評価学	作業療法評価学	1後	1			○			1		2				※講義 共同
作業療法評価学実習		2後	1					○	3	1	4	2	1			
身体系作業療法評価学		2前	1			○			1			1				
身体系作業療法評価学実習		2前	1					○	1			1	1			
精神系作業療法評価学		2前	1			○			1		2					
発達系作業療法評価学		2後	1			○				1						
小計(7科目)	-	7	0	0	-	-	-	3	1	4	2	1	兼0	-		
作業療法治療学	身体系作業療法治療学Ⅰ	2後	2			○					1		1		※講義 共同	
	身体系作業療法治療学Ⅱ	3前	2			○			1			2	1			
	身体系作業療法治療学演習Ⅰ	3前	1				○				1	1	1			
	身体系作業療法治療学演習Ⅱ	3通年	1				○		1			2	1			
	精神系作業療法治療学Ⅰ	2後	1			○			1							
	精神系作業療法治療学Ⅱ	3前	1			○			1		1					
	精神系作業療法治療学演習Ⅰ	3前	1				○				1					
	精神系作業療法治療学演習Ⅱ	3後	1				○		1		2					
	発達系作業療法治療学	3前	2			○				1						
	発達系作業療法治療学演習	3通年	1				○			1						
	老年期作業療法治療学	3前	1			○					1					
	認知系作業療法治療学	3前	1			○					1					
	認知系作業療法治療学演習	3後	1				○				1					
	日常生活支援論	3前	1			○			1		2					
	作業療法症例演習	3後	1				○		3	1	4	2	1			
	作業療法特別演習	4後	2			○			3	1	4	2	1			
小計(16科目)	-	20	0	0	-	-	-	3	1	4	2	1	兼0	-		
地域作業療法学	地域作業療法学	3前	1			○					1	1			※講義 共同	
	地域作業療法学演習	3後	1				○		1	1	2	1				
	生活環境支援論	3前	1			○					1					
	職業生活支援論	3後	1			○					1					
小計(4科目)	-	4	0	0	-	-	-	1	1	3	1		兼0	-		
臨床実習	見学実習Ⅰ	1前	1					○	4	1	4	2	1		共同	
	見学実習Ⅱ(地域)	2後	1					○	3	1	4	2	1			
	評価実習	3後	6					○	3	1	4	2	1			
	総合臨床実習Ⅰ	3後～4前	8					○	4	1	4	2	1			
	総合臨床実習Ⅱ	3後～4前	8					○	4	1	4	2	1			
小計(5科目)	-	24	0	0	-	-	-	4	1	4	2	1	兼0	-		
演習総合	卒業研究	4後	3				○		5	1	6	2	1	兼14	共同	
	作業療法総合演習	4後	1				○		4	1	4	2	1		共同	
小計(2科目)	-	4	0	0	-	-	-	5	1	6	2	1	兼14	-		
合計(107科目)	-	122	33	0	-	-	-	5	1	6	2	1	兼101	-		
学位又は称号	学士(作業療法学)		学位又は学科の分野					保健衛生学関係(リハビリテーション関係)								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
基礎分野:必修21単位、選択8単位以上(うち選択必修2単位を含む。)、専門基礎分野:必修35単位、選択1単位以上、専門分野:必修66単位、計必修122単位、選択9単位以上の合計131単位以上を卒業要件とする。 基礎分野選択科目のうち、韓国語、中国語から2単位を選択必修とする。 (履修科目の登録の上限:47単位(年間))								1学年の学期区分		2学期						
								1学期の授業期間		15週						
								1時限の授業時間		90分						

授業科目の概要				
(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	Scientific English		<p>(概要)            新たな知見の創造及び情報発信を国際的フィールドで展開するための基盤となる英語力を身につける。そのために、英語でのプレゼンテーション、ロジカルシンキングの構築、ライティング等を演習形式で学ぶ。            特にリハビリテーション科学の研究者として外国語（英語）でのプレゼンテーションや論文執筆などに必要とされるスキルを身につけることを目的としているため、英語教育を専門とする教員、留学経験を有する教員に加えて、リハビリテーション分野における国際フィールドで情報を発信している専門職教員が連携して授業を担当する。</p> <p>第1回 科学研究における英語プレゼンテーションの基礎            英語でのプレゼンテーションに必要な基本的な態度、スキルを教授し、国際学会等で発表するための基礎力を身につける。</p> <p>第2回 abstract執筆のポイントと演習            英語論文及び学会抄録等で必要となるabstractの作成において必要な知識を学修するとともに、自身の研究テーマから実際のabstractの執筆を演習形式で学ぶ。</p> <p>第3回 文章構造の理解に基づくライティングの基礎            英文をパラグラフごとに理解するための知識を学修するとともに、学習した文章構造をもとに自身の研究を英文で表現するための技術を身につける。</p> <p>第4回 英語論文執筆の演習            ここまで学修した内容を基盤とし、自身の研究テーマに関するbackgroundの執筆を演習形式で実践的に進める。</p> <p>第5回 オーラルプレゼンテーションの基礎と演習            オーラルプレゼンテーションを行う上で必要となる知識・技術の学習を深めるとともに、演習形式で実践的にそのスキルを向上させる。</p> <p>第6回 ポスタープレゼンテーションの基礎と演習            ポスタープレゼンテーションを行う上で必要となる知識・技術の学習を深めるとともに、演習形式で実践的にそのスキルを向上させる。</p> <p>第7回 オーラルプレゼンテーション演習            自身の研究課題に関するオーラルプレゼンテーションの準備を行うとともに、発表を通して実践的に学習を深める。</p> <p>第8回 ポスタープレゼンテーション演習            自身の研究課題に関するポスタープレゼンテーションの準備を行うとともに、発表を通して実践的に学習を深める。</p> <p>(① 玉木彰/2回)            第7回：玉木            オーラルプレゼンテーション演習            第8回：玉木            ポスタープレゼンテーション演習</p> <p>(①① 永井宏達/2回)            第3回：永井            文章構造の理解に基づくライティングの基礎            第4回：永井            英語論文執筆の演習</p> <p>(①② 宮本俊朗/2回)            第5回：宮本            オーラルプレゼンテーションの基礎と演習            第6回：宮本            ポスタープレゼンテーションの基礎と演習</p> <p>(①⑦ 松沢良太/2回)            第1回：松沢            科学研究における英語プレゼンテーションの基礎            第2回：松沢            abstract執筆のポイントと演習</p>	隔年・共同 講義 4時間 演習 12時間

<p>専門基礎科目</p>	<p>Scientific English</p>	<p>(20 山本英幸/4回)  第5回：山本  オーラルプレゼンテーションの基礎と演習  第6回：山本  ポスタープレゼンテーションの基礎と演習  第7回：山本  オーラルプレゼンテーション演習  第8回：山本  ポスタープレゼンテーション演習</p> <p>(21 中野三紀/6回)  第1回：中野  科学研究における英語プレゼンテーションの基礎  第2回：中野  abstract執筆のポイントと演習  第3回：中野  文章構造の理解に基づくライティングの基礎  第4回：中野  英語論文執筆の演習  第7回：中野  オーラルプレゼンテーション演習  第8回：中野  ポスタープレゼンテーション演習</p>	
---------------	---------------------------	--	--

授業科目の概要				
(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	先進リハビリテーション学		<p>(概要) 先進的・学際的視点に基づき次代のリハビリテーション科学分野を開拓するための素養を身につける。そのために、リハビリテーション科学分野での新たな展開が期待される人工知能 (AI: Artificial Intelligence)、ロボットリハビリテーション、産学連携、健康増進・予防等の最新のテーマについて各分野で実践及び研究活動に取り組む教員が担当する。講義及びディスカッション形式で授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(② 小林隆司/1回) 第1回 総論・AIを活用した先進リハビリテーション AIがリハビリテーションにどのような好影響を及ぼしうのか？また、問題点はないのか？について、参加者全員で議論する。</p> <p>(⑨ 道免和久/1回) 第3回 産学連携と先進的ニューロリハビリテーション 先進的ニューロリハビリテーションに基づいた新しい治療アプローチの研究・開発と、社会実装（機器開発含む）及びその発信に向けた産学連携について教授する。</p> <p>(⑩ 浅井仁/1回) 第6回 リハビリテーション領域における姿勢制御の最新トピックス 体性感覚情報の機能的役割及び感覚情報の重み付け (Sensory Weighting) の観点からリハビリテーション領域における姿勢制御の土台となる身体位置知覚について教授する。</p> <p>(⑪ 永井宏達/1回) 第2回 高齢期における健康増進とフレイル予防の最新トピックス フレイル予防、対策に関する最新の話題を提供するとともに、地域保健計画策定のための行政との連携に向けた先進的リハビリテーションの実践的取り組みを紹介する。</p> <p>(⑫ 宮本俊朗/1回) 第4回 国際連携とリハビリテーション科学研究の社会実装 国際連携研究プロジェクトの事例を交えながら、リハビリテーション科学研究を学際的な視点で取り組む際の課題及び現代社会の課題を解決するために必要となる国際連携と社会実装及びその発信の重要性について教授する。</p> <p>(⑬ 土江伸誉/1回) 第7回 行動科学にもとづく先進リハビリテーション 動物モデルを用いた脳梗塞に対する幹細胞移植療法及びリハビリテーション的介入の有効性評価研究について紹介する。</p> <p>(⑭ 藤岡宏幸/1回) 第8回 地域における先進リハビリテーション 人口減少、高齢化の進む地域における運動器疾患の手術及びリハビリテーションについて教授する。</p> <p>(⑮ 内山侑紀/1回) 第5回 ロボットリハビリテーション最前線 脳卒中をはじめとする様々な神経障害に対する最新のロボットリハビリテーションに関する研究と、その臨床応用の実際について教授する。</p>	隔年・オムニバス方式

授業科目の概要				
（リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士後期課程）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	リハビリテーション科学特講		<p>（概要）</p> <p>リハビリテーション科学を発展・深化させるために必要な総合的な視野と研究能力を獲得する。また、個人のみならず地域社会全体の課題を総合的に見据え、予防から治療介入まで貢献できる研究者の素養を身につける。そのために、修士課程等で培った基本的な研究能力を基盤に、リハビリテーション科学を発展・深化させるために必要な知識と研究手法を学ぶ。リハビリテーション科学に関連した実践及び研究活動に取り組む教員が担当する。</p> <p>（Ⅱ）永井宏達/11回）</p> <p>第1～2回：永井 研究者倫理と倫理的観点に基づく研究マネジメント 研究者倫理と倫理的観点に焦点を当て、研究の適切な実施とマネジメントに不可欠な原則と実践について理解する。倫理的な課題、懸念事項、及び最善の実践方法に関する議論を行い、研究者としての倫理的な責任を探求する。</p> <p>第3回：永井 リハビリテーション科学におけるデータベース構築、データマネジメント データ収集までの準備、データ管理システムの作成、個人情報の取り扱い、データの保管方法及びデータのコーディングといったデータマネジメントの方法について指導する。</p> <p>第4～5回：永井 リハビリテーション科学における統計手法（データの取り扱いと要約） 統計解析を行う前段階として必要となるデータシートにおける外れ値、逸脱、誤入力及び欠損等の取り扱い方法について指導する。加えて、母集団の特性を把握するのに必要である記述統計（数値的要約、グラフによるデータ理解）について探求する。</p> <p>第6～7回：永井 リハビリテーション科学における統計手法（連続データの解析） 連続データに関する解析を実践し、本解析を通じて得られた結果の解釈の仕方を指導する。加えて、連続データを扱う研究において、その目的に合致した論理的なデータ解析の計画を立案できるよう指導する。</p> <p>第8～9回：永井 リハビリテーション科学における統計手法（2値データの解析） 2値データに関する解析を実践し、本解析を通じて得られた結果の解釈の仕方を指導する。加えて、2値データを扱う研究において、その目的に合致した論理的なデータ解析の計画を立案できるよう指導する。</p> <p>第10～11回：永井 リハビリテーション科学における統計手法（生存時間データの解析） 生存時間データに関する解析を実践し、本解析を通じて得られた結果の解釈の仕方を指導する。加えて、生存時間データを扱う研究において、その目的に合致した論理的なデータ解析の計画を立案できるよう指導する。</p> <p>（指導教員/4回）</p> <p>第12～13回：指導教員 解析で得られた結果の解釈 これまでの研究（自身の研究を含む）を題材に解析結果の解釈を行う。さらに、結果のまとめ方及び採用されている解析方法について批判的吟味を行い、論理的かつ明確な結果を導く出す解析方法について議論する。</p> <p>第14～15回：指導教員 研究結果の効果的なアウトプットと図表作成 これまでの研究（自身の研究を含む）を題材に得られた解析結果を効果的に示すための図表作成を実践する。論理的視点に立ち、作成した図表が研究目的と合致しているか、バイアスが生じていないか、他に解析上の問題点はないか等について議論し、探求する。</p> <p>（指導教員）</p> <p>① 玉木彰 : 呼吸器疾患、急性期のリスク管理 ② 小林隆司 : 地域総合作業療法、質的研究、発達障害 ③ 川口浩太郎 : 運動器障害、疼痛 ④ 日高正巳 : 教育、データ分析 ⑤ 坂口顕 : 物理療法、基礎研究 ⑥ 平上尚吾 : 中枢神経疾患、作業療法 ⑦ 南 征吾 : 脳卒中、ロボット、機器開発</p>	講義 16時間 演習 14時間

<p>専門科目</p>	<p>リハビリテーション科学 特講</p>	<p>⑧ 松井徳造 : 精神医学、遠隔診療  ⑨ 道免和久 : ニューロリハビリテーション、  ロボット、先進リハビリテーション  ⑩ 浅井仁 : 体性感覚、姿勢制御  ⑪ 永井宏達 : 介護予防、フレイル・サルコペニア  ⑫ 宮本俊朗 : Non-communicable Diseases、疾病予防、  産学連携、機器開発  ⑬ 野添匡史 : 急性期脳卒中、再発予防、重症化予防、  急性期サルコペニア  ⑭ 森明子 : ウィメンズヘルス、理学療法  ⑮ 塚越累 : バイオメカニクス、運動器疾患  ⑯ 花家竜三 : 自閉スペクトラム症、発達障害、認知  ⑰ 松沢良太 : 循環器疾患、腎臓病、データマネジメント、  データ分析、フレイル・サルコペニア  ⑱ 田中陽一 : 行動心理学、慢性疼痛</p>	
-------------	---------------------------	---	--

授業科目の概要				
(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	リハビリテーション科学特講演習		<p>(概要)                      リハビリテーション科学特講で修得した素養を基盤として、論理的思考にもとづき高度な研究課題に実践的に取り組む能力を身につける。修士課程等で培った基本的な研究能力を基盤に、リハビリテーション科学を発展・深化させるために必要な研究実践手法について学ぶ。複合的・学際的な研究領域をベースとした少人数での実践的演習を実施し、定期的な課題発表とディスカッション形式で授業を行う。</p> <p>第1～4回:指導教員                      研究論文の批判的吟味とレビュー                      学生の研究テーマの領域及びその研究を発展させるための周辺領域の論文をもとに、研究論文の批判的吟味とレビューの方法を演習形式で学ぶ。</p> <p>第5～9回:指導教員                      学生自身の研究課題と社会的な課題との接点(レリバンス)について調査・検討し、発表させ議論する。</p> <p>研究課題と地域社会との接点                      研究課題と発達支援・障害支援の接点                      研究課題と介護予防、疾病予防の接点                      研究課題と産学連携の接点                      研究課題と急性期リスク管理の接点</p> <p>学生の研究課題に応じて各専門領域の教員が連携して指導することで、特定の分野に留まらず学際性を高めたリハビリテーション科学としての研究の視点を身につける。指導は少人数でのディスカッションを中心に構成する。</p> <p>第10～12回:指導教員                      研究課題のエビデンス創出とそのための研究マネジメント                      バイアスに対処するための手法を演習形式で学ぶとともに、そのための研究マネジメントの考え方と方法を習得する。</p> <p>第13～15回:指導教員                      先進リハビリテーションの研究課題への応用                      AI、健康増進、ニューロリハビリテーション、国際連携、ロボット、行動科学等をはじめとする先進リハビリテーションと研究課題の融合によるリハビリテーション科学領域としての研究発展の可能性を探索する。</p> <p>(指導教員)</p> <p>① 玉木彰 : 呼吸器疾患、急性期のリスク管理                      ② 小林隆司 : 地域総合作業療法、質的研究、発達障害                      ③ 川口浩太郎 : 運動器障害、疼痛                      ④ 日高正巳 : 教育、データ分析                      ⑤ 坂口顕 : 物理療法、基礎研究                      ⑥ 平上尚吾 : 中枢神経疾患、作業療法                      ⑦ 南征吾 : 脳卒中、ロボット、機器開発                      ⑧ 松井徳造 : 精神医学、遠隔診療                      ⑨ 道免和久 : ニューロリハビリテーション、ロボット、先進リハビリテーション                      ⑩ 浅井仁 : 体性感覚、姿勢制御                      ⑪ 永井宏達 : 介護予防、フレイル・サルコペニア                      ⑫ 宮本俊朗 : Non-communicable Diseases、疾病予防、産学連携、機器開発                      ⑬ 野添匡史 : 急性期脳卒中、再発予防、重症化予防、急性期サルコペニア                      ⑭ 森明子 : ウィメンズヘルス、理学療法                      ⑮ 塚越累 : バイオメカニクス、運動器疾患                      ⑯ 花家竜三 : 自閉スペクトラム症、発達障害、認知                      ⑰ 松沢良太 : 循環器疾患、腎臓病、データマネジメント、データ分析、フレイル・サルコペニア                      ⑱ 田中陽一 : 行動心理学、慢性疼痛                      ⑳ 佐久間香 : 脳卒中、歩行、バイオメカニクス                      ㉑ 清水大輔 : 高次脳機能、認知リハビリテーション                      ㉒ 奥谷研 : 精神機能、自律神経機能、作業療法                      ㉓ 荻野智之 : 脳血管疾患、ロボット、在宅心臓リハビリテーション</p>	

授業科目の概要				
(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
研究指導科目	特別研究		<p>(概要) 担当教員からの個別指導と、リハビリテーション医療に関わる種々の研究領域をリードする教員からの組織的な指導を行う。研究計画、プレゼンテーション、研究マネジメント関連の指導は、週1回を目安として、学生のスケジュールに合わせて柔軟に実施する。研究のスケジュールとしては、1年次7月に中間報告会、2年次7月に2回目の中間報告会に参加する。3年次には学位論文の作成に合わせて、学術雑誌等への投稿に向けた準備を進める。論文の執筆に当たっては、週1回を目安にして、教員が密に指導する。その後、3年次1月に学位論文を提出し、学位論文審査会を開催する。</p> <p>(3年間/全90回： 1年次/全30回、2年次/全30回、3年次/全30回)</p> <p>(1年次) 第1回～8回：主指導教員、副指導教員 教員の指導の下、リサーチエッセイの作成、関連領域の文献のレビュー、倫理審査委員会承認に向けた書類作成を進める。また、中間報告会に向けてプレゼンテーションの準備、練習をゼミナール形式で行う。</p> <p>第9回～11回：主指導教員、副指導教員 中間報告会にて研究計画についてプレゼンテーションを行うとともに、他の領域の教員からフィードバックを受ける。また、他者のプレゼンテーションに対して自身の意見を述べ、ディスカッションを行う。</p> <p>第12～15回：主指導教員、副指導教員 中間報告会における指摘を受け、研究計画を修正し、研究開始に向けた準備を進める。修正内容についてはゼミナールでプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。</p> <p>第16回～28回：主指導教員、副指導教員 倫理審査の承認を受けたのちに、研究を開始し、データの収集を進める。進捗について、ゼミナールでプレゼンテーションする。</p> <p>第29回～30回：主指導教員 年度内の研究活動と次年度の研究計画について記載した研究活動報告書を作成する。</p> <p>(2年次) 第31回～38回：主指導教員、副指導教員 研究活動報告書でまとめた内容をもとに、研究を遂行する。ゼミナールにおいてプレゼンテーションを行い、進捗に関するフィードバックを受ける。</p> <p>第39回～41回：主指導教員、副指導教員 中間報告会にてプレゼンテーションを行うとともに、他の領域の教員からフィードバックを受ける。また、他者のプレゼンテーションに対して自身の意見を述べ、ディスカッションを行う。</p> <p>第42～45回：主指導教員、副指導教員 中間報告会における指摘を受け、データの分析方法とその結果の解釈を深め、必要に応じて研究遂行に関するマネジメント方法を見直す。内容についてはゼミナールでプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。</p> <p>第46回～60回：主指導教員、副指導教員 データ収集を進め、進捗とデータ分析と解釈について、ゼミナールでプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。年度内の研究活動と次年度の研究計画について記載した研究活動報告書を作成する。</p> <p>(3年次) 第61回～75回：主指導教員、副指導教員 収集したデータの解析および分析を行い、指導教員より適宜、指導を受ける。また、学術雑誌への投稿に向けた準備を進め、投稿する。</p> <p>第76回～90回：主指導教員、副指導教員 学術雑誌へのアクセプトが未達の場合には、指導教員より適宜、指導を受けながらブラッシュアップし再投稿する。また、博士論文審査会に向けたプレゼンテーション資料の作成を進める。ゼミナールにおいては博士論文審査会に向けたプレゼンテーションの練習を行い、ディスカッションを行う。</p>	

- (① 玉木彰)  
呼吸器疾患や高齢者を対象に身体的フレイル・サルコペニアや呼吸サルコペニアに着目し、新しい評価指標の開発ならびに生命予後の延伸を目指した効果的な介入方法の確立に関する研究指導を行う。
- (② 小林隆司)  
調査研究・質的研究・比較研究などの手法を用いて、幼児期から高齢期までの地域総合作業療法の効果を検証していく手順について研究指導を行う。
- (③ 川口浩太郎)  
運動器障害(疼痛疾患を含む)の発生メカニズム、治療方法について解剖学、生理学、運動学的視点からの解明、予防法の開発に関する研究指導を行う。
- (④ 日高正巳)  
理学療法士・作業療法士の養成教育ならびに臨床教育に焦点を当て、入学者選抜ならびに卒前・卒後の教育方法・教育評価手法の開発に関する研究指導を行う。
- (⑤ 坂口顕)  
各種疾患や障害に対して、電気刺激、温熱、光線など、その他物理療法手段を用いた治療に着目し、臨床研究並びに動物を用いた基礎的研究についての研究指導を行う。
- (⑥ 平上尚吾)  
中枢神経疾患や高齢者における運動機能障害や生活障害に焦点を当て、その評価や作業療法による支援方法、および効果判定に関する研究指導を行う。
- (⑦ 南征吾)  
慢性脳卒中片麻痺上肢の機能回復と生活行為の再獲得を目的とした、ロボット等による治療機器・技術の開発と効果検証に関する研究指導を行う。
- (⑧ 松井徳造)  
精神障害者における病識の有無を含む精神障害の重症度、向精神薬の服薬状況および遠隔診療の有用性に焦点を当て、精神科リハビリテーションに関する研究指導を行う。
- (⑨ 道免和久)  
脳卒中をはじめとする様々な神経疾患の評価方法や予後予測に関する研究のほか、先端ニューロリハビリテーションに基づいた新しい治療戦略の開発に関する研究指導を行う。
- (⑩ 浅井仁)  
健常人および脳卒中片麻痺患者を対象にした立位あるいは座位での姿勢制御や位置知覚における体性感覚情報の役割および感覚情報重み付けに関する研究指導を行う。
- (⑪ 永井宏達)  
高齢期におけるフレイルとサルコペニアの予防及び対策に重点を置き、そのための効果的な評価手法と介入方法の開発についての研究指導を行う。
- (⑫ 宮本俊朗)  
Non-communicable Diseases による内部障害患者に対して、入院期で生じる身体機能低下や慢性期における二次的合併症を予防・改善するための橋渡し研究や臨床研究に対する研究指導を行う。
- (⑬ 野添匡史)  
脳卒中に対する機能改善及び再発・重症化予防を目的とした効果的な介入方法と、超高齢社会にも適応可能な脳卒中予後予測法の開発及び検証に関する研究指導を行う。
- (⑭ 森明子)  
産前産後、骨盤底機能障害、月経痛などライフステージを通して起こる女性の健康問題に焦点を当て、ウイメンズヘルス理学療法の評価・治療介入の検証に関する研究指導を行う。

研究指導科目	特別研究	<p>(15) 塚越累) 運動器疾患や高齢者等を対象として、バイオメカニクス的手法を用いた病態の評価や効果的な介入方法に関する研究指導を行う。</p> <p>(16) 花家竜三) 自閉スペクトラム症をはじめとする発達障害の運動・感覚・認知の神経基盤の解明及び治療方法に関する研究指導を実施する。</p> <p>(17) 松沢良太) 循環器病・腎臓病を有する者の低栄養、フレイル及びサルコペニアの管理法確立を目的に、効果的な治療法の開発及び新たな効果判定指標・予後予測指標の検証に関する研究指導を実施する。</p> <p>(18) 田中陽一) 行動心理学的な分析手法を用いて、慢性疼痛や中枢疾患に対する心身機能・活動に関する評価方法及び治療方法に関する研究指導を実施する。</p>	
--------	------	---	--

授業科目の概要				
(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
自由科目	教育学特論		<p>(概要) 教育学の基本である、教育原理、教育・学習心理、教育課程、教育制度などについて理解する。理学療法士・作業療法士を養成する教員としての基本的事項について理解する。教育学に関連した実践及び研究活動に取り組む非常勤講師が担当する。</p> <p>(28 大関達也/4回) 第4～7回：大関 教育原論 教育人間学の視点から「人間性とは何か」という問いの歴史的・社会的背景を振り返り、教育の基本について教授する。教育の機会を奪われた野生児の事例を取り上げ、教育がなされなければどのように成長していくのか、その場合の課題について検討することを通して、適切な教育の必要性について理解を深めるようにする。産業革命以降、教育の機会均等の観点から一定の規律を目指した学校教育が展開されているが、その中で課題について教授する。さらに、昨今は、教育が学校教育のみで終了するのではなく、生涯にわたって展開されることから生涯学習社会における学校の役割と責任についても教授する。</p> <p>(29 藤原和政/4回) 第8～9回 藤原 教育心理学 教育心理学の観点から、人間の行動のメカニズムについて取り扱う。学習者が学習を展開していく上で重要になる学習動機をテーマとして、「条件づけ」「から」動機づけ」への流れを整理し、動機づけの諸理論について教授する。 第10～11回：藤原 教育心理学 教育心理学の観点から、学習者を理解する場合の留意点について取り扱う。 教授者並びに学習者ともに人を理解するためには、先入観をはじめとしてそのときの心理的状态の影響を受ける。そこで、人間が有する認知バイアスに焦点をあて、他者理解に関わるバイアスと自己理解に関わるバイアスについて、どのようなバイアスがあるのか、それらのバイアスがあることで人間理解がどのように変化するかについて教授する。</p> <p>(30 福嶋真治/3回) 第1～3回：福嶋 教育制度論 学校教育制度について現状を「公教育」と「私教育」に分類し整理する。公教育として実施される場合には、その内容や運営が文部科学政策として実施されることから、我が国における学校教育のガバナンスがどのようになっているのか、その課題は何かについて教授する。教育が目指すものとしては、教育の質保障が注目されている。教育の質に関わる免許や基準、さらには、教育現場を監査し評価していく取り組み等について紹介し、よりよき教育を展開していくための制度設計について議論する。</p> <p>(31 安藤福光/4回) 教育課程論 第12～13回：安藤 教育課程論 教育の基本は、教育内容を構築していくカリキュラム設計をどれだけ丁寧に行うのかにかかる。そこで、教育内容に関する概念の整理(プログラム、カリキュラム、教育課程)を行うとともに、我が国の教育が国際社会の中でどのような状況にあるかについて、学力問題、PISA調査の概要と結果などを紹介し検討する。 第14～15回：安藤 現在の初等中等教育で展開されている我が国の教育の現状について、学習指導要領の歴史的変遷を紹介し、21世紀に求められる学習とはどのようなものかについて教授する。</p>	

授業科目の概要				
(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士後期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業 科目	講義等の内容	備考
自由 科目	リハビリテーション 科学教育論 (養成校教育)		<p>(概要) 理学療法士・作業療法士の養成教育に関する知見を深め、理学療法学教育・作業療法学教育の発展に必要な知識を培う。「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」の現状と課題や、問題基盤学習、客観的臨床能力試験について理解する。さらに、新しい教育方法及び教育関連用語について学び、リハビリテーション科学の将来を担う人材を育成するにふさわしい教育方法を考察・検討する。</p> <p>1) 理学療法士・作業療法士養成施設指定規則の現状と課題について理解する。 2) 問題基盤学習、客観的臨床能力試験について理解する。 3) 新しい教育方法及び教育関連用語について理解する。 4) リハビリテーション科学の将来を担う人材を育成するにふさわしい教育方法を考察・検討する。</p> <p>(④ 日高正巳/8回) 第1～2回：日高 専門職養成教育の現状と課題 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の現状と課題について紹介し、Entrustable Professional Activitiesを見据えたカリキュラムプランニングについて議論を行う。EPAに基づき、専門職教育としての到達目標を設定し、到達に向けた向上目標、さらには、体験目標への展開を検討するとともに、学生がどのような能力を習得したのかを示すDiploma Supplementsについて教授する。また、これらの内容を学生に伝えるためのグラフィックシラバスについても紹介する。</p> <p>第3～4回：日高 アクティブラーニング、問題基盤型学習の背景と特性をテーマとして扱う。問題基盤型学習の背景・特性並びに学習科学に基づいた効果的な教授法について紹介し、学生が主体的で対話的な深い学びに向けて、将来、教授者になることを意識し議論を展開する。どのような課題を設定していくことが効果的な問題基盤型学習につながるのかを考え、課題提示と包含要素を考え、最終的に問題基盤型学習の課題作成まで取り組み、作成した課題についての議論を行う。</p> <p>第5～6回：日高 客観的臨床能力試験の課題 理学療法士作業療法士の教育現場で取り組まれることが増えてきている客観的臨床能力試験 (OSCE) を取り上げ、臨床実習前OSCEについては個別科目での練られた厳格な評価との関係性、臨床実習後OSCEについては臨床実習での多様な経験との関連から、評価方法並びに抱える課題について整理する。その上で、個別体験から抽象的概念化のプロセスである経験学習モデルについても紹介し、臨床能力修得状況を評価する方法としてパフォーマンス評価、パフォーマンス課題の設定について教授する。</p> <p>第7～8回：日高 専門職養成教育プラン 将来、教育者として活動することを目指して、自己が担当する授業について1コマを取り上げ、授業プランの立案を行うとともに模擬授業を実施し、終了後にリフレクションを行うという一連の授業過程を経験し、改善点等について議論を行う。</p>	講義 8時間 演習 8時間

授業科目の概要				
(リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
自由科目	リハビリテーション科学教育論(臨床教育)		<p>(概要) 臨床教育に焦点をあて、臨床場面を介してどのように後進を育てていくのかについて、知識並びに技術の修得を図る。後進の育成に関わることが自らの成長を促すことにつながるTeaching is learning twice並びに経験学習の基本的な考え方について教授する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床教育・経験学習の基本について理解する。</li> <li>2) 臨床実習教育が抱える課題について理解する。</li> <li>3) 診療参加型臨床実習における指導方法を理解する。</li> <li>4) 診療参加型臨床実習における学生評価について理解する。</li> </ol> <p>(④ 日高正巳/8回) 第1～2回：日高 理学療法士・作業療法士の臨床実習教育が抱える課題について、コンプライアンス、ハラスメント、対象者の権利保障・安全性の管理、個人情報保護などについて教授する。その上で、適切な臨床教育の展開に必要な学習理論として、正統的周辺参加並びに認知的徒弟制の基本について教授する。</p> <p>第3～4回：日高 臨床実習において、実習生が取り組む水準について紹介し、免許取得時点で有すべき到達目標並びに臨床実習前後の評価の観点について現状と課題について教授する。その上で、養成校内教育、臨床実習教育、卒後臨床研修の役割分担について検討する。</p> <p>第5～6回：日高 診療参加型臨床実習の指導プログラムの立案として、見学・模倣・実施のプロセス並びに指導ポイントについて解説し、基本的態度・運動スキル・認知スキルのそれぞれの指導プログラム立案を行う。立案された指導プログラムについて議論し、臨床教育におけるポイントを教授する。</p> <p>第7～8回：日高 診療参加型臨床実習における学生評価として、教育評価の意義、診断的・形成的・総括的評価並びに評価と評定の違いについて教授する。また、形跡的評価を展開するための評価ツールを紹介し、それらのツールを用いる場合の留意点、さらには、評価目的に応じた実習指導者と教員の役割について教授する。</p>	講義 10時間 演習 6時間

